

厚生常任委員会県外調査報告書

平成29年8月28日（月）～30日（水）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 京都大学 i P S 細胞研究所、大阪大学医学部附属病院 未来医療センター、オリックス・リビング(株) グッドタイムリビング宝塚逆瀬川、(福)北摂杉の子会 レジデンスなさはら
- (2) 出席委員 西村委員長、高橋(栄)副委員長、川本、山本、嶋村、小川、京島、てらさき、高谷、鈴木、池田の各委員
- (3) 調査日 平成29年8月28日(月)から30日(水)まで

2 京都大学 i P S 細胞研究所

(1) 調査目的

京都大学 i P S 細胞研究所は、新しい多能性幹細胞で、再生医療を実現するために重要な役割を果たすと期待されている i P S 細胞を世界で初めて作製に成功した山中教授が所長を務めており、病気やけがなどで失われてしまった機能を回復する目的の治療法である再生医療を研究している。今後は、i P S 細胞から分化誘導した細胞を移植する細胞移植治療への応用が期待されている。

本県においても、神奈川県保健医療計画の改定骨子案の中で最先端医療・技術の実用化促進を進めており、安全・安心で質の高い医療体制の整備を目指していることから、同研究所の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア ほぼ無限に増殖し様々な細胞へ分化できる多能性を持っている i P S 細胞の特徴について説明。

イ 再生医療用 i P S 細胞のストックについて

C i R A ・細胞調整施設 (F i T) において臨床用 i P S 細胞の製造を行いストックを行っている。

そこから大阪大学や理研等に提供し臨床試験を行っている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 i P S 細胞は、がんと同じように無限に増殖できるということだが、現在どの程度増殖をコントロールできる状態なのか。

応 答 i P S 細胞の増殖をコントロールするというよりは、i P S 細胞が様々な細胞に分化したときに、例えば10万個のうち一つでも他の細胞に分化しないで i P S 細胞として残ってしまいそのまま無限に増殖してしまわないように努力をしている。

質 疑 i P S 細胞と遺伝子を自由自在に編集するゲノム編集との将来のすみ分けについてどう考えているか。

応 答 ゲノムの編集による遺伝疾患の治療はまだまだ方向性が決まってい
ないが、例えばある病気になっている患者から i P S 細胞を作る。
その i P S 細胞は、その患者の病気の原因の遺伝子に変異しているの
で、その変異をゲノム編集により治してしまう。そうするとその患者
由来で、かつ正常な細胞ができる。それを患者に移植することで、患
者由来なので免疫も問題なくかつ遺伝子も治った細胞を使った治療
ができるというこれが i P S 細胞とゲノム編集を使った治療になると
考えている。

質 疑 i P S 細胞と E S 細胞のすみ分けについてどう考えているか。

応 答 受精卵から作る E S 細胞は倫理的に問題があるというのが従来で
ありまだ免疫等の解決が完全ではない。患者から作った細胞を使った
i P S 細胞は患者から作るのだが、時間とお金がかかってしまうとい
う問題がある。結局疾患に応じて使い分けていくしかないと考えてい
る。

質 疑 i P S 細胞の増殖によるガン化は克服できているのか。

応 答 二つ要因があるが、一つは i P S 細胞を作るときに傷ができてしま
いそれがガン化するということだが、遺伝子に傷をつけないで i P S
細胞を作る方法が開発されたのでその問題は払拭された。しかし、も
う一つの問題である i P S 細胞が体の中で残ってしまいそれがガン
化してしまうことだが、これは今取り組んでいる最中である。

質 疑 i P S 細胞のストックは今どれぐらいあり日本人のどれぐらいカ
バーできるのか。

応 答 現在は、日本人の30%をカバーできるぐらい i P S 細胞があり、目
標としては75種類の i P S 細胞を作れば日本人の80%をカバーでき
るようになり2030年までの目標である。



(4) 調査結果

最先端医療の細胞医療の実用化を促進するため、京都大学 i P S 細胞研究所は、2030年までに四つの目標を掲げており、そのうちの一つである「i P S 細胞ストックを柱とした再生医療の普及」は、2030年までに75種類の i P S 細胞を作り日本人の80%をカバーできるようになることを目指している。

以上のように、京都大学 i P S 細胞研究所における最先端医療・技術の実用化促進を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

3 大阪大学医学部附属病院 未来医療センター

(1) 調査目的

大阪大学医学部附属病院未来医療センターは、最先端の医療を開発し、臨床でその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用するまでの一連の研究過程であるトランスレーショナルリサーチ(T R)を実践している。また、同センターでは、産業界のニーズを医療の現場に積極的に取り入れることにより、大学発の技術創出・実用化に取り組んでいる。

本県においては、患者が身近な医療機関で質の高い医療が受けられるよう、地域医療体制の整備を推進しており、地域の中心的な医療機関としての役割を果たす地域医療支援病院の整備を推進していることから、同センターの取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア トランスレーショナルリサーチ(T R)の実践について

最先端医療イノベーションセンター棟を造り、一つ屋根の下で、学生の教育研究改革、産学連携活動による基礎研究から臨床研究、さらには産業化までを一つの施設で集結して行っている。

未来医療センターもこの中に入っており一翼を担っている。

イ 包括連携協定について

多様な企業・機関による組織と組織の連携強化、オープンクロスイノベーションによる事業化の加速、社会的課題への挑戦などを目的に締結する。

(3) 主な質疑応答

質 疑 包括連携協定を結んでいる企業はどれぐらいあるのか。

応 答 平成29年8月現在で21社と締結している。

質 疑 大阪大学の産学官連携の取組とはどのようなものか。

応 答 平成22年度の経済産業省の補助事業である先端技術実証・評価設備整備費等補助金(「技術の橋渡し」拠点整備事業)に採択され大学独自の財源も投入し、最先端イノベーションセンターを合築という形で整備した。

質 疑 D D S (ドラッグデリバリーシステム) の改良についてどのような取組をしているのか。

応 答 D D Sは副作用の軽減や広範囲な局所投与が可能等、これからの医学では永遠のテーマであると感じている。今後東京医科大学等と連携を進めていきたいと考えている。



(4) 調査結果

未来医療センターがある、最先端医療イノベーションセンター棟には、最先端医療センターが併設されており、未来医療センターのアカデミック臨床機関の機能が充実・整備されることによって、最先端医療イノベーションセンターで開発された独自のシーズの臨床評価が高精度に実施されると期待されている。

東京一極集中になって大阪から製薬会社の本社が出て行ってしまったことから、最先端医療センター棟と大阪大学医学部附属病院未来医療センターが新たな創薬の拠点となり、企業との連携を更に強化しトランスレーションリサーチを加速することによって、製薬企業本社がまた大阪に戻ってくることを目指している。

以上のように、大阪大学医学部附属病院未来医療センターにおける、大学発の技術創出・実用化の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

4 オリックス・リビング(株) グッドタイムリビング宝塚逆瀬川

(1) 調査目的

オリックス・リビング(株)は、老人ホームと学生マンションを併設し、高齢者と学生の世代間交流を深める目的の「クロスエイジプロジェクト」に取り組んでいる。このプロジェクトでは共生をテーマに同社職員、学生、大学生協の職員を構成員とするコミュニティサークルを発足させ、老人ホーム入居者と学生と一緒に料理を作ったり、進路相談や恋愛相談などをしながら世代間交流の場となっている。

本県においても、誰もが孤立せず、自立して、健康にらせる地域社会の実現に取り組んでおり、その中でともに生き支え合う地域社会づくりを目指していることから、同社の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

クロスエイジプロジェクトの取組について

同社の職員とクロスエイジプロジェクトに参加する学生が一緒になって建物内外で行われるアクティビティの企画、実施を図り、学生と高齢者の交流の機会づくりを行っている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 施設の稼働率はどれぐらいか。

応 答 我々の会社はかなり強気な値段設定をしているが、関西方面だと稼働率は90%を超えている。

しかし、関東方面は苦戦しており、特に横浜市都筑区は苦戦している。

質 疑 高齢者と学生が併設される施設ということだが、学生の反応はどういう感じか。

応 答 正直、学生の反応はそんなによくはないが、我々としてはスマートフォンのアプリであるLINEを使って行事を発信したりして学生に興味を持ってもらうよう努力をしている。

質 疑 31施設の中で約6割が看取られるという説明があったが、家族がいない完全な独居の方は何人入居しているか。

応 答 独居の方の人数は数えていない。

質 疑 学生寮と老人ホームは行き来が自由にできるのか。

応 答 普段は扉があり鍵をかけている。しかし、イベントなどがあるときに開放している。

質 疑 利用者に対して行政から家賃補助は出ているのか。

応 答 海外と違って、日本ではまだまだ家賃補助とかはないので当社では食事補助みたいな形を行っている。



(4) 調査結果

学生マンションと老人ホームの併設により、様々なイベントを行いながら多世代交流を進めており、また、そのコンセプトの下、地域に開かれた産学協同の新たなコミュニティの形成に取り組んでいた。

以上のように、オリックス・リビング(株)における高齢者と学生の世代間交流を深める目的のクロスエイジプロジェクトを調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

5 (福)北摂杉の子会 レジデンスなさはら

(1) 調査目的

(福)北摂杉の子会は、人材育成事業として、自閉症・発達障がい・知的障がいに関する研修企画・講師派遣・コンサルテーションを実施している。特に、強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修を行い、支援現場でスーパーバイザーとして活躍できる人材の養成を行うことによる他事業所支援を行っている。

本県においては、津久井やまゆり園再生基本構想策定に際して、園の地域生活移行をすすめる機能を高めるための方策を検討している中、津久井やまゆり園周辺地域の施設の支援等や地域での生活を支える担い手の確保と育成を考えていることから、同法人の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア レジデンスなさはらの概要について

レジデンスなさはらは、同法人が運営する作業所に通う人々の暮らしの場として建設された。重度の知的障がいや自閉症の方の地域での暮らしを実現するために、食事や管理、職員の相互扶助などの面で協力体制として運営を行っている。

イ 人材育成支援の取組について

支援現場でスーパーバイザーとして活躍できる人材の育成づくりが必要であるため、これを実現するための強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修等を行っている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 建設費はどれぐらいか。

応 答 造成費、設計費等全て含めて2億3,000万円ぐらいである。

質 疑 施設の職員の募集はどういう状況か。

応 答 募集をかけてもなかなか人が集まらない状況なので、今いる職員を大事にしている。

質 疑 大阪府発達障害者支援センターで機関コンサルテーションをやっているとのことだが、関係機関との連携や支援体制の構築はどうしているのか。

応 答 支援体制の構築のために、関係機関との連絡調整会議に参画したり、発達障がいの方や家族のニーズから新たな提案をしている。



(4) 調査結果

福祉事業所職員による利用者虐待が問題になってきている中、支援現場でスーパーバイザーとして活躍できる人材の養成が急務であるため、当法人は独自に強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修を行い、強度行動障害者に対し適切な支援を行う職員の人材育成の取組を行っていた。

以上のように、(福)北摂杉の子会における支援現場でスーパーバイザーとして活躍できる人材の養成の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた

<参 考>

- 1 随 行 者 加藤主査（議会局議事課）、中田副主幹（議会局議事課）、
宮崎主幹（保健福祉局総務室）

- 2 調査箇所側出席者
 - （1）京都大学 i P S 細胞研究所
顧問、副所長、事務長、所長
 - （2）大阪大学医学部附属病院 未来医療センター
最先端イノベーションセンター長、特任教授、特任準教授、教授、助教授、特
任助教授
 - （3）オリックス・リビング(株) グッドタイムリビング宝塚逆瀬川
営業部主任
 - （4）(福)北摂杉の子会 レジデンスなさはら
理事長、地域生活支援部部長、サービス管理責任者